

令和4年度 学部長と学生との懇談会

「学生参画会議」テーマ

「学部の垣根を越えて学ぶことができるプログラム」

実施日時：令和4年10月26日（水） 13：00～14：30

場 所：Zoom によるオンライン

参加学生数：学部生8名（1年次生3名、2年次生4名、4年次生1名）

司 会：石橋学部教務委員長

参加教職員：・諏訪看護学部長

- ・真嶋評議員
- ・酒井副研究院長
- ・石橋学部教務委員長
- ・斉藤学生生活支援委員長（学部教務副委員長）
- ・飯野学部教務副委員長
- ・事務（平野看護学系事務室長、川名学務係長、近藤係員）

実施内容

国際交流プログラム説明会（COIL, GRIP） 説明者：酒井先生

テーマ「学部の垣根を越えて学ぶことができるプログラム」

- 学生からの意見発表…別紙をもとに発表
- 意見交換

[学生の意見] 提出様式

学部の垣根を越えて学ぶことができるプログラムについて、評価、提案等を行ってください。その際、以下の学生参画会議のテーマ説明も参考にしてみてください。

これまでの想定を超えた情勢や環境の変化が続く予測不可能な時代が到来したといわれる今、社会では、高い専門性や特定のスキルだけでなく、自ら課題を設定し、多様な人とコミュニケーションを取りながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図ることができる人材が求められています。そうした力を身に付けるためには、文理の壁や専門の壁を越えた普遍的知識・能力を高め、考えを多角的・論理的に深く掘り下げる力を養うことが不可欠です。

本学では、総合大学として人文社会科学・自然科学・生命科学のあらゆる専門分野の教育研究が行われている強みを生かし、普遍教育科目や学部開放科目等において、所属学部によらず多様な分野の授業科目を履修することができる履修体系をとっています。現在、総合大学の豊富なリソースをさらに活用した、学部の垣根を越えて学ぶことができる新たなタイプの履修プログラムの構築を進めています。この新たなプログラムは、現代的な 이슈（課題）について体系的かつ学際的に学ぶことができるよう、複数の授業科目を組み合わせた小さなまとまり（6-10 単位程度）とし、より学びやすい仕組みとするほか、履修により学生が身に付けた知識・スキルを可視化して証明する仕組みも合わせて整備する予定です。

この新たなプログラムに関し、まとまりのある 6-10 単位で分野横断的なプログラムが作られるとしたら何を学びたいかについて、学生の皆さんの視点で、自由に、具体的な提案を聞かせてください。90 分 1 タームで 1 単位相当になります。プログラムの内容に合わせて複数タームにまたがるプログラムや、特定タームで集中して学ぶプログラム、2 コマ連続や週 2 コマの授業など、ターム制のメリットを生かした自由な発想のプログラムの立案を期待します。

1年生からの意見

【学生の意見】

全部の学部の専門科目を1コマずつ受けて、最後に1番楽しかった学部の授業をもう一度受ける機会が欲しい。それぞれの学部が知恵を絞り、自分たちはこんなことをやっていますよというアピールの場にもなったり、他学部の専門性を理解できたりするいい機会になるのではないかな。

大学で学べる専門知識を使いどのように社会に活用していくかについて学ぶプログラムに参加してみたい。具体的には虐待事件が後を絶たないが、虐待について法政経学部的な立場と福祉的な立場、教員的な立場、心理的な立場などの専門職の方から講義を受けどのようにしたら虐待事件が減っていくのかについて学びたい。

総合大学であることを生かし、全ての学部の人それぞれの専門分野における現代の 이슈について解説する授業を組み、一緒に世界で起こっている問題や課題の解決に取り組むなど、学生が網羅的に学べるプログラムを受講したい。そしてこうした難しいテーマだけではなく、コミュニケーションを増進するためにいろいろな学部の人との交流の場としても活用したい。

オンデマンドで実際の株価と千葉大学の仮想的な通貨を授業内だけで用いて勉強をするなど、投資や税金など将来の生活に役立つ知識を学びたい。

千葉大学は全員留学制度があるが、留学に行くまでに留学先で困らないように英語での会話を留学生などと練習する機会が欲しい。国際科目の展開で留学生と関わることができる授業を受けたかったが、亥鼻での専門科目の授業があったため断念した。留学に行く前に英語学習を特化することはとても大切であるため、もう少し英語で会話する機会の多い授業を増やして欲しい。

看護に限らず学べる点は千葉大学の特徴だと思うので、普遍教育を受けて他学部の専門的な分野をさらに普遍科目でより勉強したい。(教養コア科目の学部指定撤廃、他学部の研究室見学、実験をしたいなど)

今の日本について様々な側面から考えるプログラムを受講したい。具体的には今の日本の優れている所や足りない所を把握したり、学生ができる解決策を模索する。医療の面や科学、文化、政治、経済、ジェンダーと多岐にわたって見つめることができると面白いと思う。

今後グローバル化していく中で外国人の方も増えると思うので、医療と英語を組み合わせた授業プログラムを受講したい。将来医療者となった時に役に立つのではないかな。

医療の分野もデジタル化が進んでいるので、AIや最新の医工学について学びたい。

学部の垣根を越えた授業等があればもっと将来を考える上での選択肢が広がったり、多様性を考えることのできる学習になるのではないかな。非医療系学部の学生が病院等を見学できる授業や、医療系の学生は多くの人を知るために企業訪問などを行い、お話を伺うことで、将来の患者になりうる他職種の方々のお話を聞くことができるのではないかな。

【学生の意見】

履修したい授業が専門科目と被り、受講できないということが多々あったため興味のない分野を取らざるを得ない。それを改善してほしい。具体的には手話の授業などの将来医療現場でも役立つ授業。

教育学と医薬看護学にまたがる授業で、保健教育に対して考える授業をしてみたい。多くの人に正しい知識を浸透させることは、生活習慣病、感染症（性感染症も含む）の予防、心のケアなどに対し非常に大切なことであると思う。そこで、どのような授業や講義をすれば多くの人に伝わりやすいのか、興味を持ってもらえるかなどの教育学的な視点と、医薬看護学における心身のことや病気のこと、お薬のことについての正しい知識の両方を知ることの意義は大きいと思った。また、看護師にも養護教諭になる人がいるように、教師と医療従事者は全く繋がりが無い訳では無いので、お互いに興味を持って勉強し合えるのではと思う。

外国語を学ぶ機会が初修外国語しかないなので、外国語を学びながら文化だけでなく自分の専門について学びたい。英語だけでなく、アジア圏など自分が興味ある言語で学びたい。

地域活性化について。学部や学年を超えたグループを作り、ある地域の再開発のために何ができるかを考えて地域の人々にプレゼンする機会が欲しい。色々な分野の立場からどんな制度を作れば良いのかを考えてそれを付き合わせる事が出来るため自分の役割もはっきりしており、それぞれが活躍できると思う。行動力や協調性、企画力が身につくと思う。

自分の学部、学科では習うことのないことの、入門編のようなものを学んでみたい。この学部では、こういうことを習うのだという知識を持つことで、たくさんの人との交流を持ちやすくなったり、将来多くの方と接する中で、理解が深まったりするのではないかと思う。また、自分の好きなことを深く学ぶのは勿論だが、たくさん知識を身につけることや、自分の知らない世界を広げていく楽しみが生まれていくと思う。

2年生からの意見

【学生の意見】

- ・パソコンの基本的な扱い方を学習したい。パソコンはどの分野に行っても扱える必要がある。機械に強い人になりたい。ビジネスを自分で始める人はIT系の人の方が始めやすそうだと思う。
 - ・イラストレーターの使い方を知りたい。広報ができる人になりたい。
 - ・経営について学びたい。自分でビジネスを始めるには経済、経営の知識が必要。
 - ・社会に出てすぐに役に立つことを学びたい。メールの作成の仕方、敬語の使い方など。円滑なコミュニケーションを図るために必要。
 - ・実験レポートの書き方について聴ける講習を受けたい。
 - ・会計、簿記の資格があるとどの分野でも役立つと思う。
 - ・イングリッシュハウスを利用して英会話をたくさんする。
 - ・長期休みを利用してフィールドワークをする授業を受ける。
- ・工学と医学(看護)とデザインや美術の融合授業。理由は、私が個人的にこの融合に興味があるから。
- ・学部の垣根をこえるために、まず他の学部の授業内容を亥鼻にいても受講できる仕組みが欲しい。昨年まではオンラインが多かった上に1年生の間は西千葉での普遍授業があったため必修以外に授業を取りやすかったが、今はずっと亥鼻にいてオンライン授業も減ったので、他の分野の授業を取りにくい。例えば4限まで亥鼻で対面授業を受けて5限が西千葉の対面授業だと、時間割的には組めるが間に合わない。特定の期間でまとめて学べると、学んだことを忘れにくいし、他の分野の先生から授業を受けるとなると、亥鼻開講も難しいと思うので、特定の期間でまとめて学ぶ方が移動の問題も考えなくていいので、いいのかなと思う。
- ・ある一つの社会課題を、様々な学部の学生がそれぞれの視点からどのように解決していけるか、を考える授業。一つの社会課題のなかでさまざまな分野に関わる問題があると思うから。このような授業を行う際には、大学内や座学内での学習に収まるのではなく、実際に、社会課題の当事者と関わる機会や、実際にその解決に取り組んでいる様々な分野のセクターと関わる機会があると、その課題をより身近に感じたり、自分の学んでいることが実際に社会にどのように還元されるのか、というのがわかるので良いと思う。
- また、そのような話題を取り扱った映像作品を通してそれについて考えたりするのも非常に面白いと思う。

4年生からの意見

【学生の意見】

(1) 分野横断的なプログラムが作られるとしたら何をどのように学びたいか

- ・どの分野でどのようなことが学べるかについて知ることができるプログラム
- ・看護政策の観点から地域保健を学ぶプログラム、社会学（ソーシャルワーク）や芸術（アートシンキング）、都市デザイン（環境工学）と連携して地域看護を学ぶプログラム
- ・国際教養と地域保健、それに関連する施策を系統的に学べるプログラム
- ・子育て支援関連施策に関して、他学部とディスカッションできるプログラム
- ・力学の視点が必要な身体的な対人援助や助産ケアについて、物理学と連携して学びたい
- ・小児看護や学校保健について、教育学部や障害児支援などの分野と連携して学びたい
- ・人体の形態機能や生理を学ぶ際、教育学部（体育関連）と連携して、運動指導の実際も交えることで、知識と実践をリンクさせたい
- ・看護職は勤務場所に関わらず教育に携わる機会が多いので、教育について基礎から学べるプログラム
- ・法律の基礎、法体系、社会問題に関する背景等について学べるプログラム
- ・生命に関する倫理的な問題について、哲学の基礎から学び、文系学部も含めて多学部でディスカッションできるプログラム

(2) 現行のカリキュラムについての意見

- ・I P E に関して、看護についての学びの浅い1年生の時に医工学コースの生徒と関わるのがもったいない。専門科目を履修している時もしくはおおよその履修後、実習後の時期などに学部合同の授業を受けたい。
- ・英語を学びたかった、学んでおけばよかったという意見が複数人から得られた。看護専門英語に関して、英語で看護を学ぶ機会を増やすために全学年履修選択できるようにすべき。
- ・時間的な余裕のなさが主体的な学び、普遍教育の履修を妨げている様子が伺える。気軽に授業を聴講できるようにしてほしい。もしくは学部の授業に他学部の先生が講師で来るなどの機会を増やしてほしい。
- ・実習は取り組むべき課題を見つける貴重な時間で様々なことに興味を持つが、主体的に学びを深められるような精神的身体的余裕がない。実習中でも取得できる授業やプログラム（聴講のみや課題が少ないなど）を充実させてほしい。
- ・就職活動に際して、病院や保健所以外での看護職の働き方についてもっと知る機会があれば良かったと感じた。
- ・看護学以外に興味を持った分野として、教育学を挙げた人が最も多かった。勤務場所に関わらず教育を行う場面が多いことから、教育について基礎から学びたいと思う人がいるようだった。